

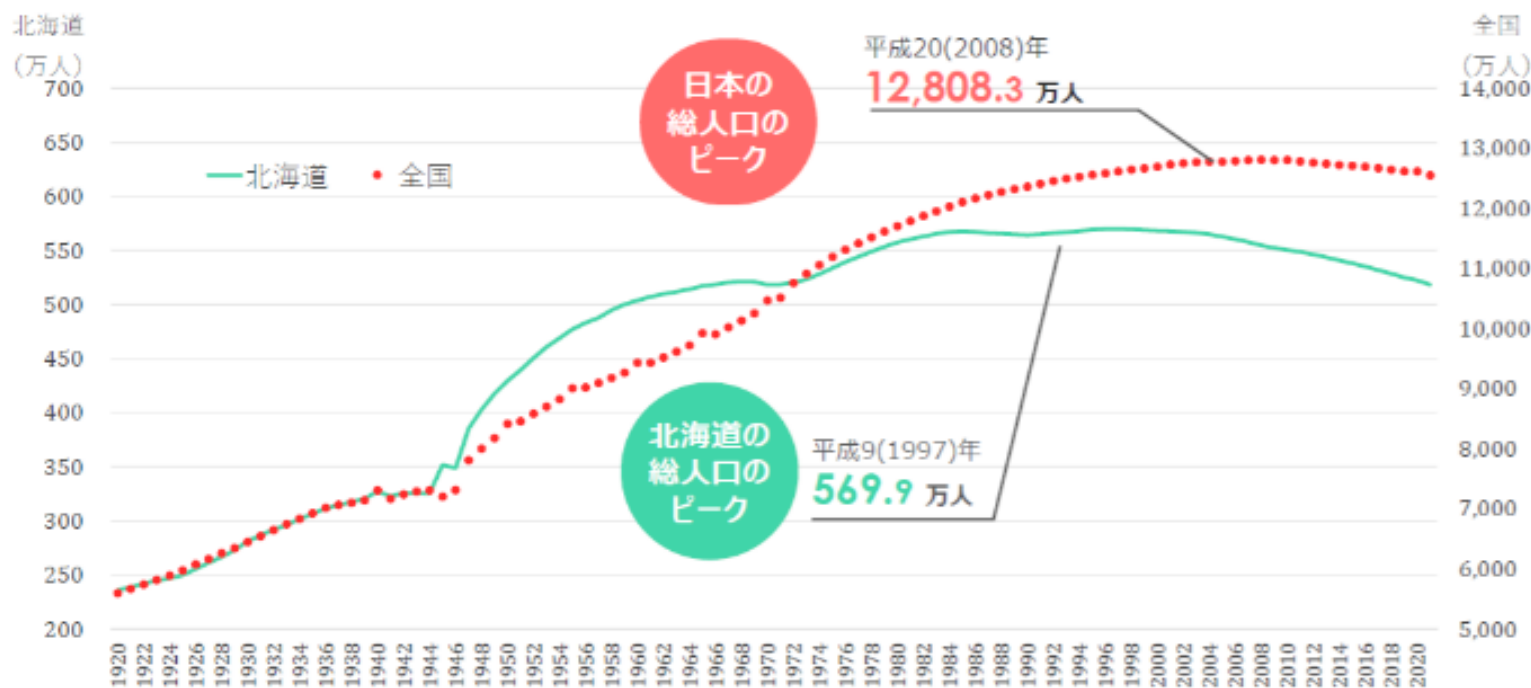
# 少子化の現状

環境生活部くらし安全局道民生活課

# 1 人口の減少

- ◆ 本道の人口は、令和4年(2022年)9月末現在で約515万人です。
- ◆ 平成9年(1997年)の約570万人をピークに、全国を上回るスピードで減少が進んでいます。

総人口の推移 (全国・北海道)

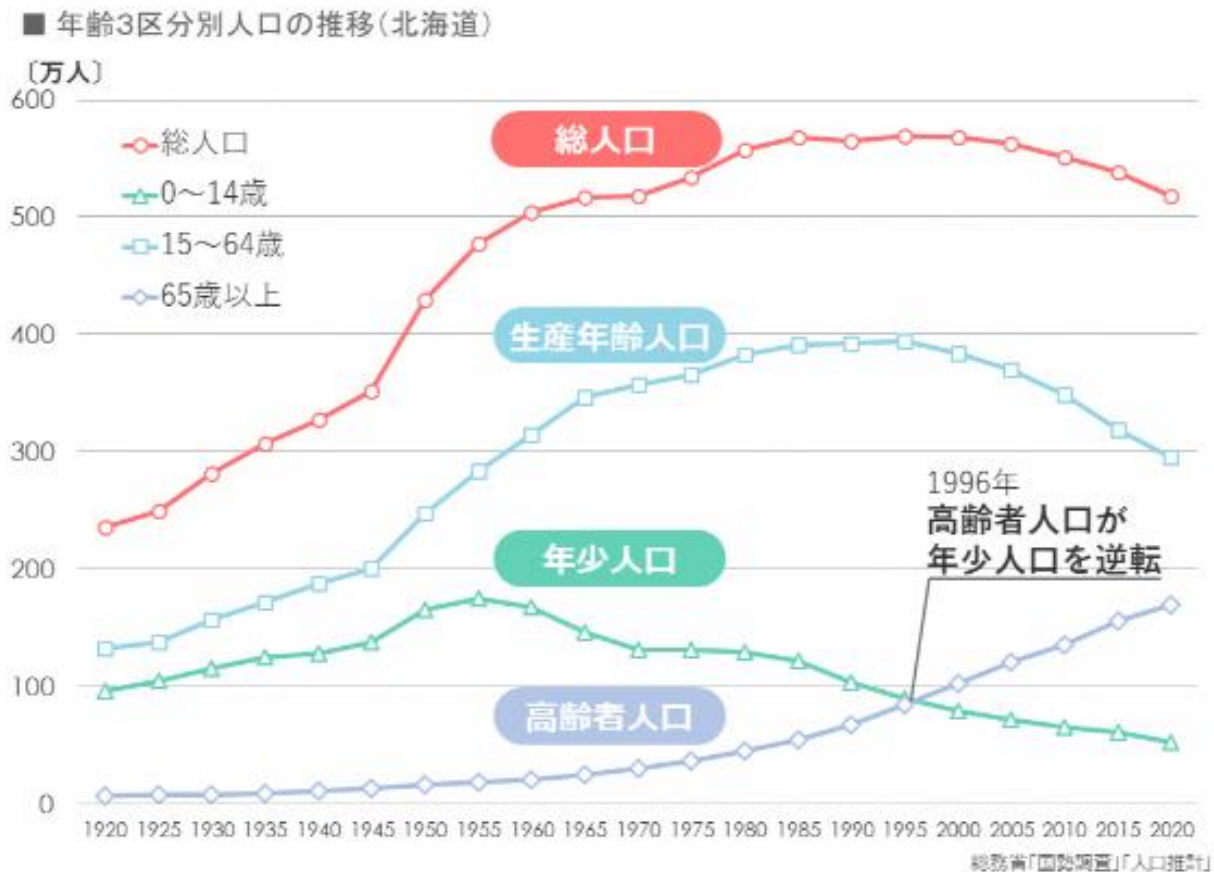


総務省「国勢調査」「人口推計」

出所：図表「北海道人口ビジョン(改訂版)のオープンデータ」(北海道総合政策部計画局統計課)  
人口の現在値 (同課ホームページ)

## 2 少子高齢化の進行

◆ 平成8年(1996年)に高齢者人口と年少人口(14歳以下)が逆転するなど、少子高齢化が進行しています。



出所：図表「北海道人口ビジョン(改訂版)のオープンデータ」(北海道総合政策部計画局統計課)  
人口の現在値(同課ホームページ)

# 3 年少人口の割合（1）

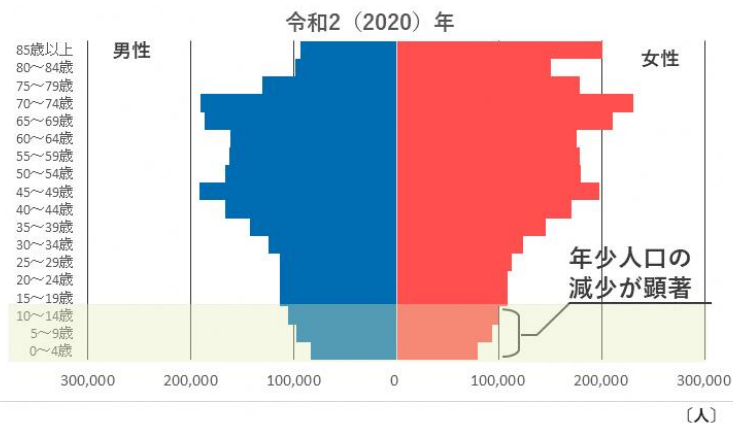
◆ 本道の年少人口の割合（10.7%）は、全国のそれ（11.9%）に比べて小さくなっています。

年齢3区分別人口割合の推移（全国・北海道）

[%]

		1920年	1970年	1990年	2015年	2020年
年少人口 (0～14歳)	全 国	36.5	24.0	18.2	12.6	11.9
	北海道	40.9	25.3	18.4	11.4	10.7
生産年齢人口 (15～64歳)	全 国	58.3	68.9	69.7	60.7	59.5
	北海道	56.1	69.0	69.7	59.6	57.2
高齢者人口 (65歳以上)	全 国	5.3	7.1	12.1	26.6	28.6
	北海道	3.0	5.8	12.0	29.1	32.1

男女・年齢別人口（人口ピラミッド）の推移（北海道）



出所：「北海道人口ビジョン(改訂版)のオープンデータ」（北海道総合政策部計画局統計課）

### 3 年少人口の割合（2）

◆ 札幌市以外の年少人口の減少割合は、札幌市のそれに比べて大きくなっています。

「札幌市」と「札幌市以外」の年少人口の推移

(単位：人)

区分	H12 2000	H17 2005	H22 2010	H27 2015	R2 2020
全道 (A+B)	792,352	719,057	657,312	608,296	555,804
札幌市 (A)	248,405	234,086	224,212	221,013	215,366
札幌市以外 (B)	543,947	484,971	433,100	387,283	340,438

上記の比率

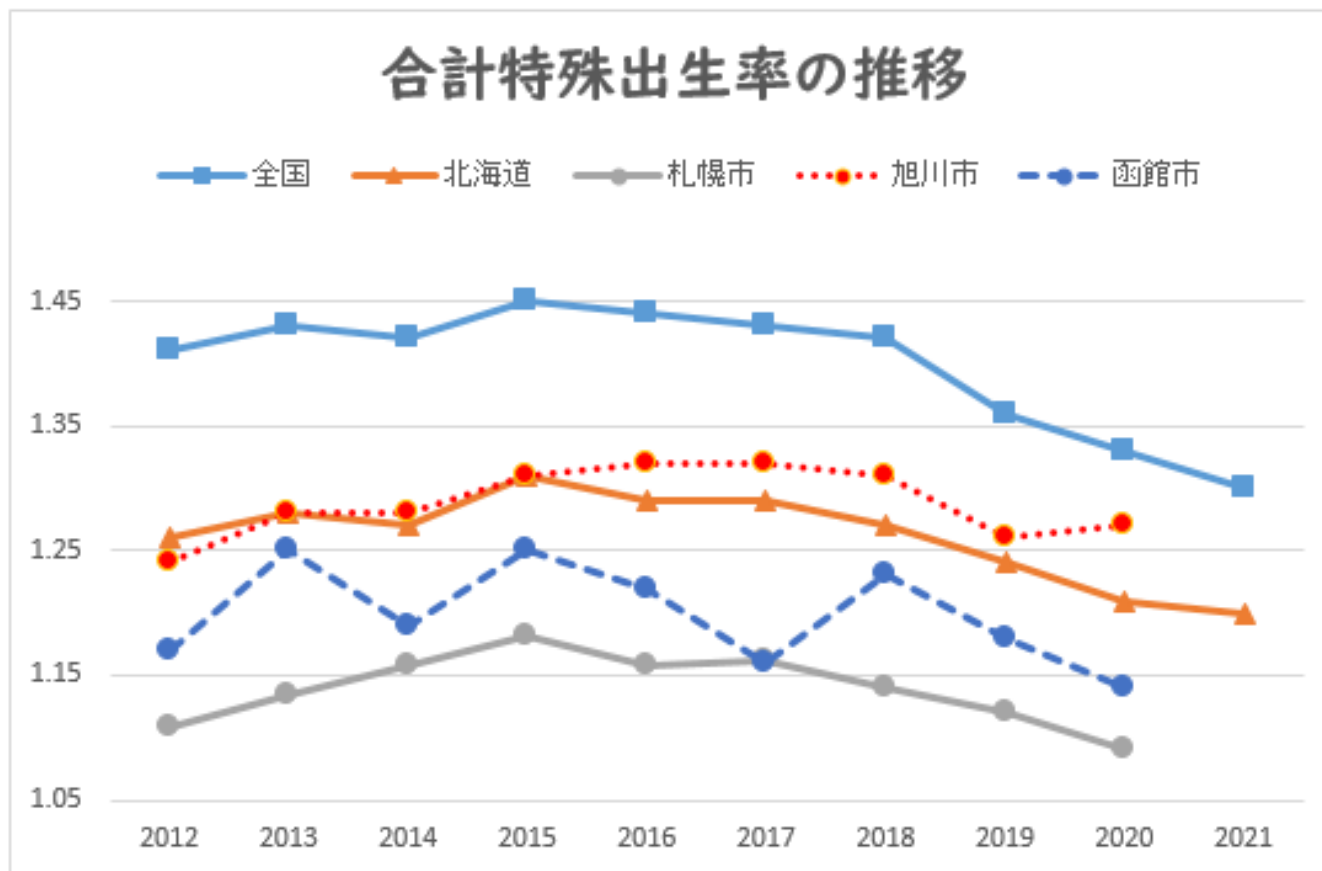
札幌市	31.4%	32.6%	34.1%	36.3%	38.7%
札幌市以外	68.6%	67.4%	65.9%	63.7%	61.3%

出所：総務省「国勢調査」

出所：「国勢調査」（総務省）の結果から北海道が作成。

## 4 合計特殊出生率の推移

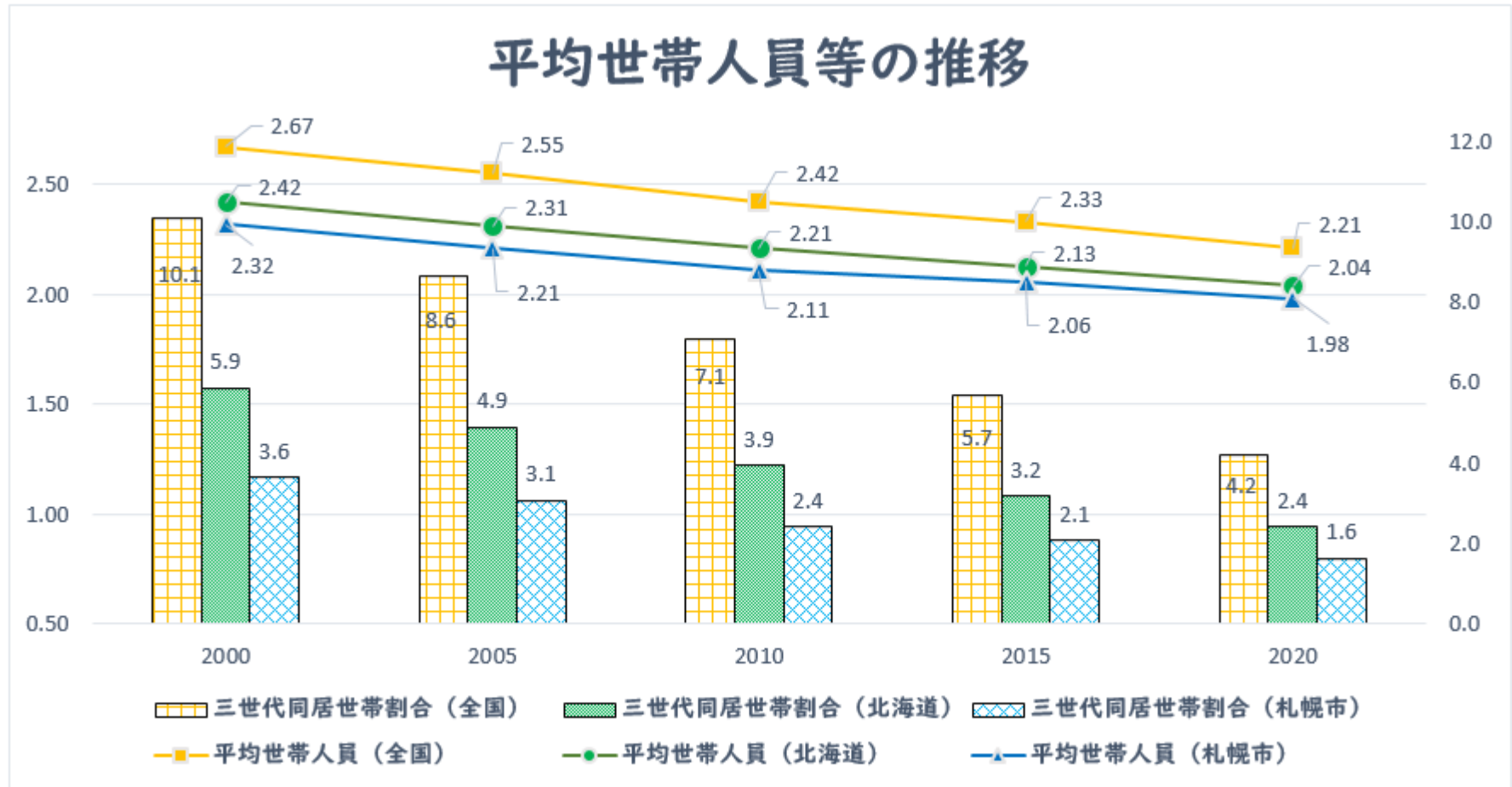
- ◆ 本道の合計特殊出生率は、令和3年では1.20（全国平均1.30）と東京都、宮城県に次いで全国で3番目に低い水準となっています。
- ◆ 旭川市は全道平均を上回り、函館市、札幌市が全道平均を下回っています。



出所：「令和3年(2021)人口動態統計月報年計（概数）の概況」（厚生労働省）、札幌市、旭川市、函館市の公表する統計データから北海道が作成。  
※合計特殊出生率（15～49歳までの年齢別出生率を合計したもの）。

# 5 世帯構成の推移 (1)

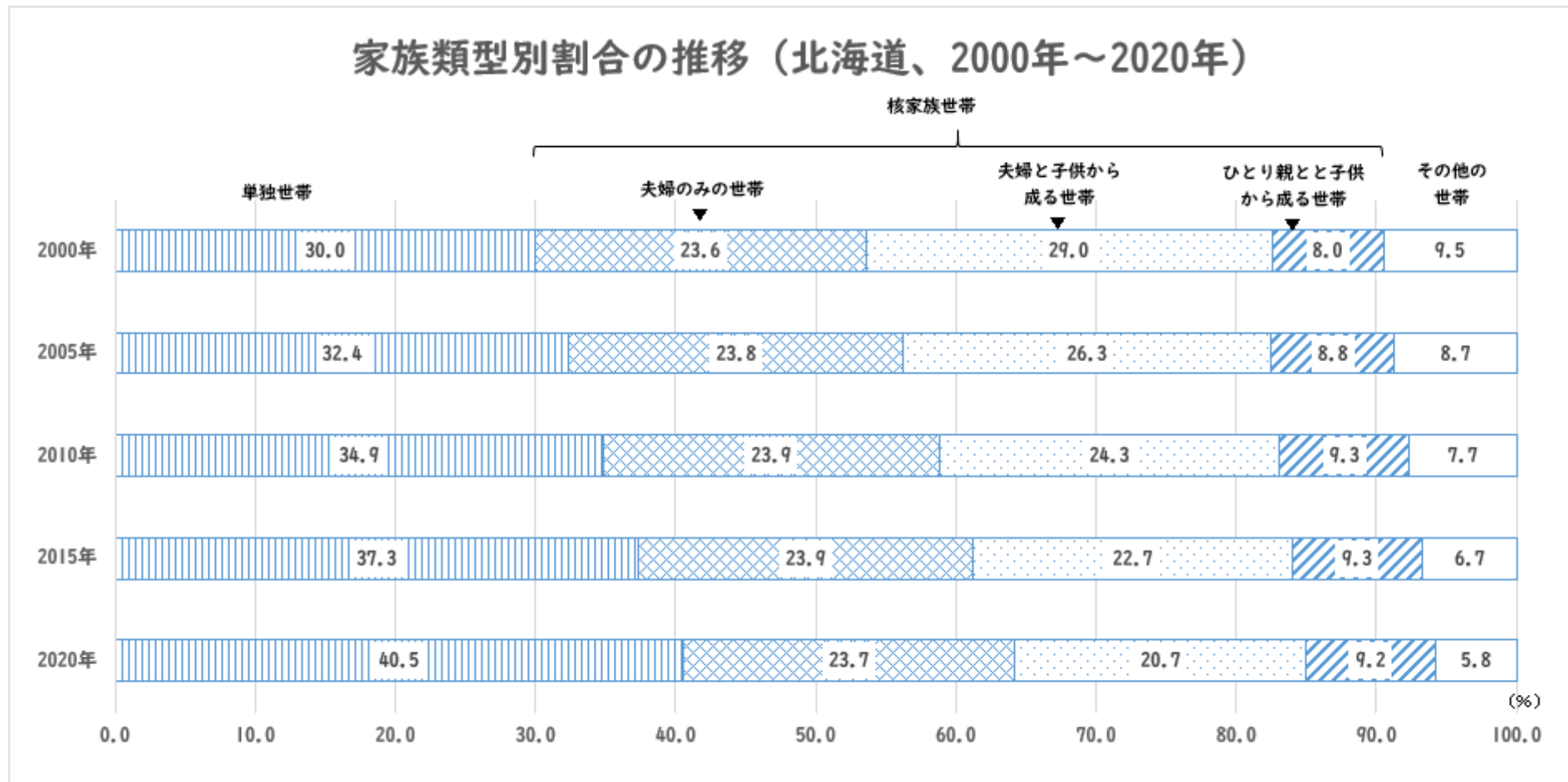
- ◆ 本道の平均世帯人員は、2.04人/世帯で年々減少しています。
- ◆ また、三世帯同居世帯割合は、2.4%で年々減少しています。



出所：「国勢調査」（総務省）の結果から北海道が作成。

# 5 世帯構成の推移 (2)

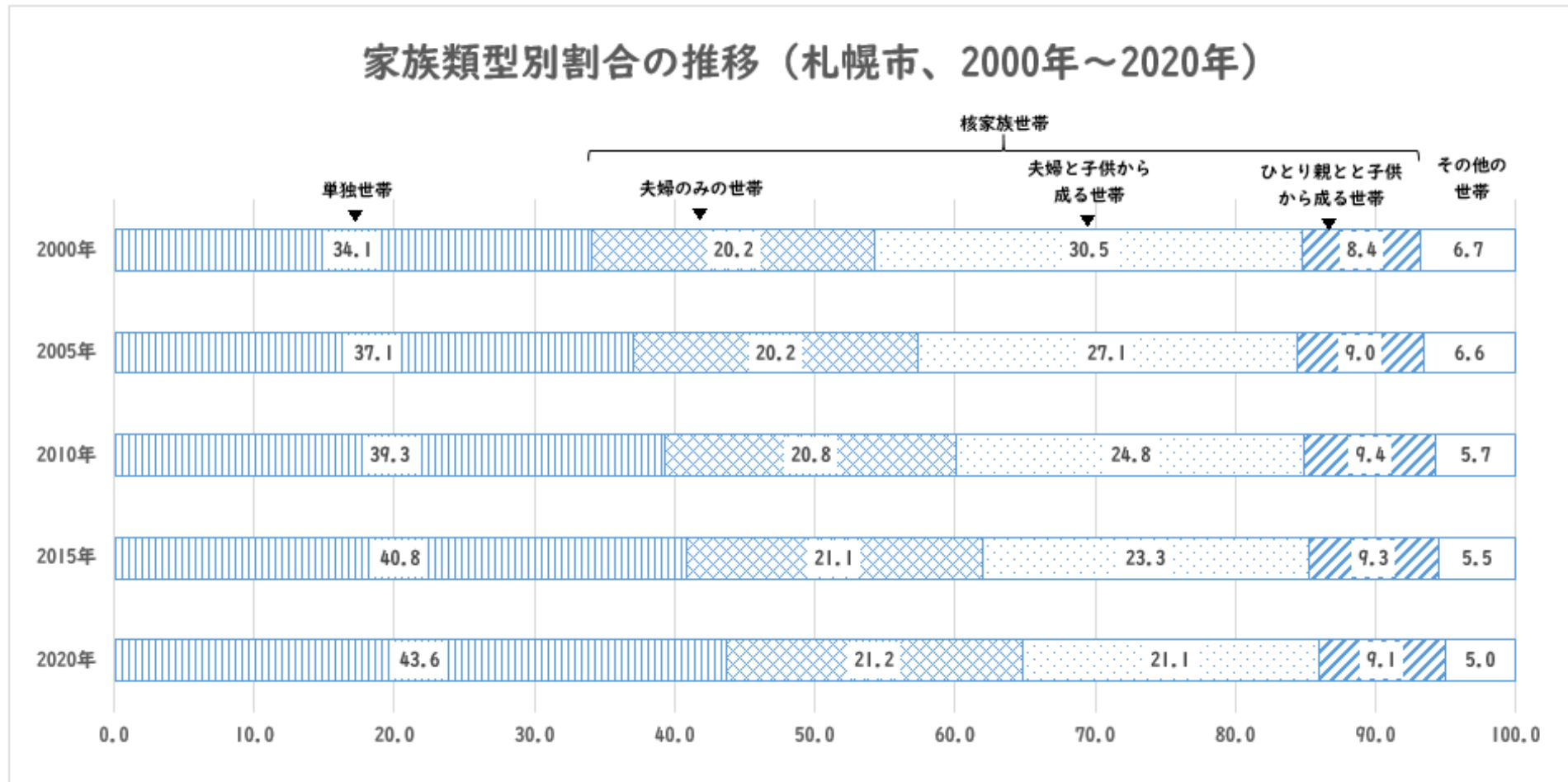
◆ 本道の一般世帯のうち、子供のいる世帯（夫婦と子供から成る世帯、ひとり親と子供から成る世帯）は、年々減少しています。



出所：「国勢調査」（総務省）の結果から北海道が作成。



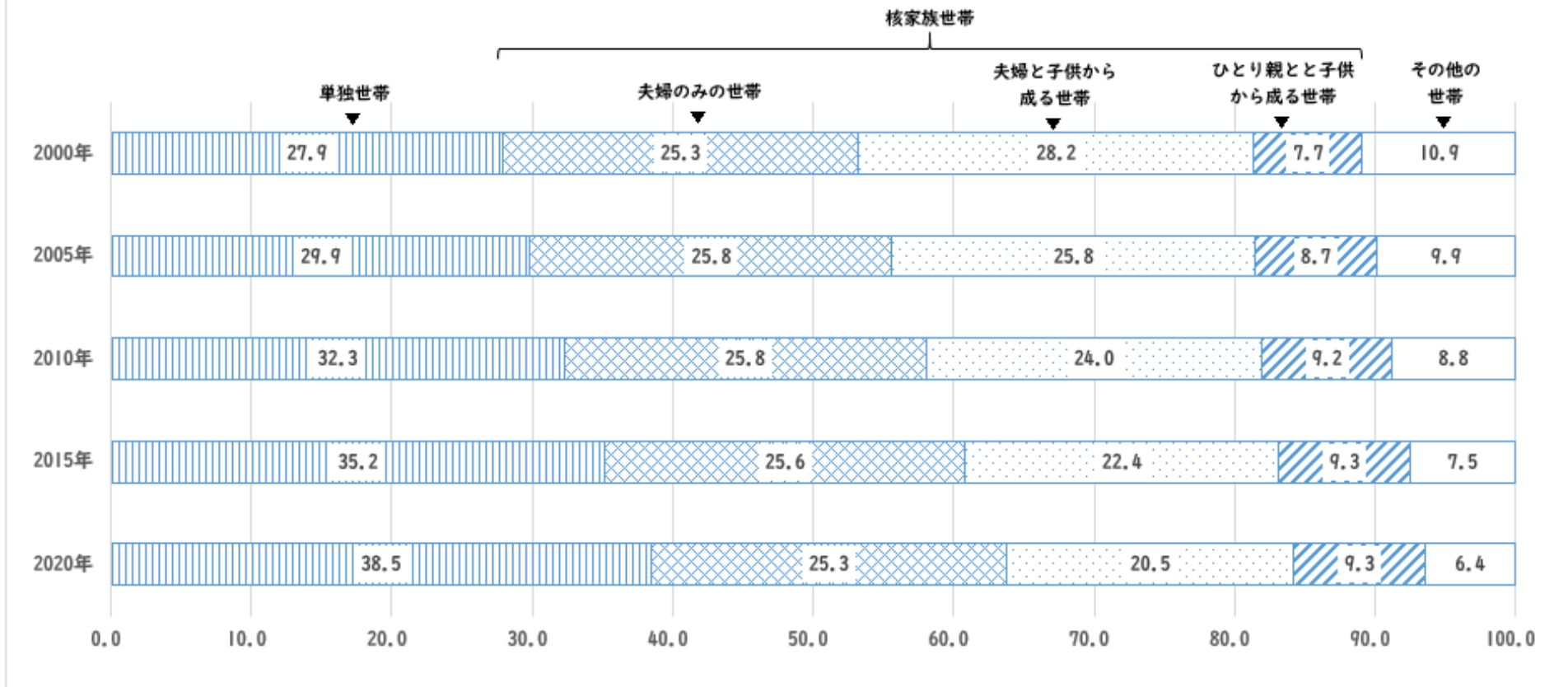
# 5 世帯構成の推移 (3)



出所：「国勢調査」（総務省）の結果から北海道が作成。

# 5 世帯構成の推移 (4)

家族類型別割合の推移 (道内の札幌市以外の地域、2000年～2020年)



出所：「国勢調査」(総務省)の結果から北海道が作成。